

■谷口雅春 宗教家。『生長の家』創始者。神道・仏教・キリスト教など根本は同じ『万教帰一』。『日本会議』のルーツ。

たにぐちまさはる
郡司千島探検1893＝ 兵庫県矢部郡鳥原村字東所で、谷口音吉・つまの次男に生まれる。名は正治。
日清戦争始・1894＝ 1歳：

白馬会・・・1896＝ 3歳：石津又一郎と谷口さぬ(父の妹)の養嗣子となる。

子規句歌革新1898＝ 5歳：大阪市立蘆分尋常小学校に入学。
Bushidou・・・1899＝ 6歳：転居に伴い、私立滝川尋常小学校、神戸市立兵庫永澤小学校への転校を経て、復校し、この時以来、生涯、頻繁に転居して、活動を展開して行くことになる。

教科書疑獄・1902＝ 9歳：卒業。大阪市立春日出尋常高等小学校に入学し、

日露戦争終・1905＝12歳：
満鉄発足・・・1906＝13歳：首席で卒業。大阪市立市岡中学校に入学。{中学世界}{文章世界}等に、さかんに投稿。

韓国併合・・・1910＝17歳：この頃、「維摩経」を読む。国語の教師一柳安次郎に感化されて、文学の道に志すようになり、大逆事件判決1911＝18歳：卒業。早稲田大学高等予科(文科)に入学。{新潮}に3カ月連続で投稿し入選。
明治天皇没・1912＝19歳：首席で修了し特待生となる。早稲田大学文学部英文科乙組に進学するが、同窓生に直木三十五・西条八十・青野季吉・坪田譲治ら。
第一次大戦始1914＝21歳：中退し、大阪の摂津紡績本社に技術練習生として入社。夜は大阪府立職工学校に通う。このころ「国訳大藏経」を読む。

民本主義・・・1916＝23歳：摂津紡績明石工場に転勤。
ロシア革命・1917＝24歳：退社し、社会改造と人類救済の道を求めて心靈研究を始め、贈られた雑誌{彗星}で皇道大本を知ると、本格政党内閣1918＝25歳：長女恵美子の皇道大本(通称大本教)を訪れ、
べルリン条約・1919＝26歳：大本教に入信。まもなく文章の才能を認められて出版物の編集主任となり、{神靈界}{大本時報}{大本新聞}等に、宗教論文及び小説、随筆、和歌、時事問題など、多数の文章を発表。
大暴落・・・1920＝27歳：前年に大本教に入信してきた江守輝子と結婚。『「皇道靈学講和」を処女出版し、講師として東京へ行ったり、出口王仁三郎の「霊界物語」の口述筆記を任せられていたが、

原敬首相暗殺1921＝28歳：不敬罪と新聞紙法違反の疑いで、出口らが検挙され(第一次大本教事件)、西田天香著「懺悔の生活」を読んで、京都の{一燈園}を訪問し、機関紙{光}に多数の論文を寄稿するうち、
水平社結成・1922＝29歳：大本教事件の裁判で、大本教自体に決定的な疑問を感じ、浅野和二郎に従って大本教を脱退。
関東大震災・1923＝30歳：長女恵美子が誕生。浅野主宰の雑誌{心靈界}に、流行のニューソートを「光明思想」と訳して紹介したり、護憲三派圧勝1924＝31歳：{新時代}誌上に多数の文章を寄稿。ヴァキューム・オイル・カンパニーの広告部に翻訳係として入社。
治安維持法・1925＝32歳：ホルムス著“The Law of Mind in Action”を「如何にせば運命を支配し得るか」と題して翻訳出版。
円本時代始・1926＝33歳：「信仰革命—靈魂の不滅と人の死んだ後の話」を出版。ラーソン著「鍊心健康術」を翻訳出版。
金融恐慌・・・1927＝34歳：ホルムス著“Being and Becoming”を「神と偕に生くる道」と題して翻訳出版。教化のための論文を{光}、{新時代}、倉田百三の{生活者}に毎月寄稿し、

共産党事件・1928＝35歳：{光}に「一つの提唱」を発表し、月一度の“求道者の会”を主催。“雅春”に改名するなど、意識が高まり、世界恐慌・・・1929＝36歳：*「今起て！」との神の啓示を受け、“光明思想”を全世界に宣布すべく、{生長の家}誌の執筆を始め、海軍軍縮条約1930＝37歳：創刊号1千部の無代進呈を開始(その発行日が生長の家立教の記念日となる)。以後、満州事変・・・1931＝38歳：「大調和の神示」など、{生長の家}誌に次々発表し、五一五事件・1932＝39歳：合本第一巻「生命の真相」を出版。ヴァキューム・オイル・カンパニーを退社して、伝道に専念。
国際連盟脱退1933＝40歳：「非常時日本に日本精神を発揮せよ」。(生命の芸術)を創刊。{生長の家}合本第二巻「久遠の實在」を出版。
帝人疑獄事件1934＝41歳：盛岡・東京・七尾へ最初の講演旅行し、{岩手日報}では当日写真入りで報道される。東京の原宿に移住、

芥川直木賞始1935＝42歳：{主婦の友}で生長の家が特集され、旧山脇高等女学校を譲り受けて赤坂本部開設、花嫁学校{家庭光明寮}を併設。教育部を創設し{生命の教育}創刊。第一回指導者講習会を開催し「古事記」を講義。劇作「釈迦と維摩詰」が早稲田大学大隈記念講堂で上演され、「生命の真相」全集全12巻出版完了

二二六事件・1936＝43歳：*教化団体{生長の家}設立。{白鳩会}を結成し機関誌{白鳩}創刊。初心者のための月刊誌{光の泉}創刊。倉田百三・杉山元治郎・ラス=ビハリ=ポーズらを発起人、井上哲次郎・今東光らを賛成人に{万教帰一連盟}ができる。{生命の芸術}を改題した総合雑誌{いのち}には著名人が執筆するなど、体制が確立するが、日中戦争始・1937＝44歳：日比谷公会堂で「耶蘇伝」が尾上菊五郎の日本俳優学校劇団によって公演される。*当時の信者には高級軍人の家族が多くいて、{いのち}時局文芸思想大講演会を九段軍人会館で開催するなど、急速に右傾化し、国家主義・全体主義・皇国史観・感謝の教えを説き、その著作は、信徒間で「愛国聖典」と呼ばれた。“皇軍必勝”のスローガンの下、金属の供出運動や勤労奉仕、戦闘機を軍に献納するなど、教団を挙げて戦争に協力、

健保+総動員 1938＝45歳：樞原神宮造営勤労奉仕隊に参加、第二次大戦始1939＝46歳：{いのち}を改題して求道実践のための雑誌{行}とする。満州・支那の教化のための東亜同和会の設立し、{生長の家}東亜同和版を発行。

大政翼賛会・1940＝47歳：宗教団体の実施で宗教結社になる。初の野外講演会を京都円山公園音楽堂で開催、聴衆1万4千名。{生命の教育}巻頭言に「天皇信仰」発表。大政翼賛生長の家青年会結成。皇紀2600年で蓼科高原に記念塔を建造。
日米開戦・・・1941＝48歳：「大日本神国観」発表。「谷口雅春選集」発刊。{生長の家}東亜同和版、{光の泉}{生命の教育}{行}が終刊。
・・・1942＝49歳：愛国機献納運動。満州建国10周年慶祝講演会のために、朝鮮・満州各地を御巡錫。
創価学会検挙1943＝50歳：「海ゆかば」を歌うことを批判。第二回朝鮮・満州御巡錫。光明図書貸出機関の設立。
年金+総武装 1944＝51歳：「皇国神力発動の根本をなすもの」を発表し、軍及び政府を批判。用紙配給杜絶で{生長の家}{白鳩}の発行不能に。江蘇省兵団長小林信男中將の招聘で渡渡し各地で講演。支那派遣軍総司令官岡村寧次大將と会談。

敗戦・・・・・・1945＝52歳：敗戦になるや、'敗れたのは飽くまでも無明と島国根性に凝り固まった'偽の日本'であって、本当の"神州日本国"は敗れたのではない'と主張。

新憲法施行・1947＝54歳：巡錫再開し、東海・近畿・九州に赴く。
極東裁判決・1948＝55歳：青年会全国大会、光明実践練成会開催。
独立回復・・・1951＝58歳：マデラ事件・1952＝59歳：宗教放送{希望の泉}始まる。堕胎防止運動提唱。
TV放送始・・・1953＝60歳：新教育者連盟発足。
自衛隊発足・1954＝61歳：原宿の本部会館が完成。
国連加盟・・・1956＝63歳：鳩山首相に憲法無効宣言を建言。
美智子妃・・・1959＝66歳：英国の宗教新聞{ヴォイス}に評伝と著作が連載紹介される。ラジオ放送{幸福への出発}始まる。
安保闘争・・・1960＝67歳：宝蔵神社落慶。
TV宇宙中継始1963＝70歳：世界巡錫を行い、ローマ法王と会見。

東京オリンピック 1964＝71歳：政治結社{生長の家政治連合}発足。
大学紛争始・1965＝72歳：青年会が沖縄の全小・中学校に国旗を贈呈。
美濃部都知事1967＝74歳：生長の家・カトリックが中心となり、優生保護法改廃期成同盟を結成。
全共闘・・・1969＝76歳：第1回自主憲法制定国民大会で講演(翌年の第2回でも)。「占領憲法下の日本」頒布運動を展開。
日中国交回復1972＝79歳：「『諸悪の因』現憲法」を著し、
石油ショック1973＝80歳：生政連讃歌「護国の神剣」発表(黛敏郎作曲)。ハワイ・メキシコ・ペルー・ブラジルへ巡錫。
角栄金脈辞任1974＝81歳：円覚寺貫主朝比奈宗源の呼びかけを受け、宗教界の復古主義団体{日本を守る会}({日本を守る国民会議}と共に{日本会議}の前身)を結成。しかし明治憲法復元運動は未完のまま、

ジャンボ機墜落1985＝92歳：生長の家総本山のある長崎で、没した。
インターネットWikipedia・「光明揭示板」より、